第4回宗像市地域公共交通会議会議録

日 時	平成27年3月30日（月） 15時00分～16時00分
場 所	市役所本館304会議室
出席者	<p>【委員】永尾英信、中川原達也(嘉村代理)、大枝良直、福澤好展、森 正彦、児嶋二三生、今川泰志、原口 貢、前田 誠、宮菌寛治、早川正史、貫 一字、原田勝子、平田恵美、峯 久子</p> <p>【事務局】大隈課長、田中係長 小島</p>
報告書	<p>1) 平成27年4月1日改定のリーフレットについて</p> <p>2) 無料乗車キャンペーンについて</p>
協議事項	1) 日の里線（ユリックス乗り入れ路線）の運行会社変更について
その他	1) 機構改革に伴う担当課替えについて

1 会長あいさつ

平成26年度も精力的にご議論いただき、ありがとうございます。本日は最後の会議となる。今年度の見直しは軽微な見直しになるが、利用者の立場に立った良い見直しをできている。最後までよろしくお願ひしたい。

2 前回会議録確認

意見なし。

3 報告事項

1) 平成27年4月1日改定のリーフレットについて

(事務局)

お手元に平成27年4月1日改定のリーフレットを配布している。小冊子については、今回の会議録と一緒に送付する。

(原口委員)

利用者は小冊子を活用している。不足した場合の増刷は可能か。

(事務局)

在庫があれば、お渡しすることはできる。

(平田委員)

小冊子は事業者に配布しているか。ふれあいバス、コミュニティバスの運転手に渡してもらいたい。

(永尾会長)

不足した場合は、予算をつけて増刷を検討してほしい。
また、バス車内でも利用者にお渡しできるように工夫してほしい。

2) 無料乗車キャンペーンについて

(事務局)

1月25日(第4日曜日)に無料乗車キャンペーンを行った。ふれあいバス第1～3系統を合わせて270名、コミュニティバス全路線を合わせて429名となっており、第2日曜日の利用者数と比較してもふれあいバスは3倍、コミュニティバスは7倍、合わせて4倍の方が乗車している。昨年度のキャンペーン時の利用者数と比較しても、かなり増えていることから周知ができているのではないかと考える。

キャンペーン前後での利用者数を比較したが、季節の関係もあり、利用者が増加したという結果は出ていないが、今まで利用したことがない方に利用していただくという点では、効果があったのではないかと思う。

(永尾会長)

天気にもよるが、前年度のキャンペーン時と比較して利用者が約1.5倍に増えている。
質問、意見はあるか。

(平田委員)

今後もキャンペーンの予定はあるか。年に1回か。

(事務局)

予定はある。利用したことがない方に利用してもらう機会としては有効的であるため、アンケートの結果等も踏まえて、利用促進のキャンペーンを検討していきたい。

(平田委員)

可能であれば、季節を変えて年に2回していただきたい。

(事務局)

意見として承る。

4 協議事項

1) 日の里線（ユリックス乗り入れ路線）の運行会社変更について
（西日本鉄道株式会社）

西鉄バス宗像が運行している東郷駅日の里口を起点として宗像ユリックスを繋ぐ日の里線を、西鉄グループ会社である宗像西鉄タクシーへ運行を移管したい。

この計画に至った背景だが、市から運行経費を一部負担していただいているが、収支は厳しい状況が続いている。平成25年度の実績では、収支率が90.0%、市からの負担を含めると94.2%と赤字が出ている。この路線は、乗務員を早番、遅番の2名、車輛を1台と、最低限の乗務員数、車輛数で運行している。収支改善を図るために、これ以上便数を削減すると利用者の利便性を損ないかねない。路線の縮小、撤退せざるを得ないという危機感を抱いている。できるだけ自力でこの路線を維持していきたいと考えている。賃金体系の違いによって、更なるコストダウンが見込める宗像西鉄タクシーに移管することによって、路線の維持を図りたい。

変更に伴う内容だが、現在提供しているサービスに変更はない。乗務員の所属する会社や車輛は宗像西鉄タクシーに変わる。運行ダイヤは、現行のダイヤを引き継ぐ予定である。利用者向けのサービスについても、現金、ICカードニモカ、高齢者向けのグランドパス65等、今提供しているサービスはすべて引き継ぐ。利用者向けに変更があるものは、車輛に記載している運行会社名が変わる程度である。乗務員の教育も西鉄グループとして一元的に行うため、接客レベルのダウンには繋がらないように努めたい。承認をいただければ、必要な手続きを行い、5月中旬から6月あたりで実施したい。

（永尾会長）

質問はあるか。

（平田委員）

現在の日の里線は、バス停や経由地等が分からないという意見を聞く。利用者が少ないようであれば、高齢者でも分かるような表記や、バス停の場所も分かりやすくしてはどうだろうか。合わせて検討していただきたい。

（西日本鉄道株式会社）

道路管理者や交通管理者の了解を得て、設置しているため、我々の一存で場所を変更することは難しい。まず、ご意見をいただいたようなバス停がどのくらいあるのかを調査し、利用者に分かり易い、使い易い環境作りをしていきたい。

（今川委員）

生活路線のバスであるため、最低でも現状のダイヤを継続していただきたい。また、谷井市長の公約であったように日の里地区と自由ヶ丘地区で団地再生に取り組んでいる。コミュニティとしても、自分たちでできること、市と協働でできることを検討しており、働く世

代を呼び込もうと努力している。人口増加、利用者増加になるために、西鉄バスを利用してくださいと呼びかけを行っていきたい。日の里地区の高齢化率は32%、戸建てだけでは35%となっている。高齢者が自家用車を使わない率が増加している。そうすると頼るのは、バスとなる。収支は厳しいと思うが、現状維持をお願いしたい。

(西日本鉄道株式会社)

都市再生に関わる協定の締結をした。交通事業者としてバス事業者が果たせる役割は、理解している。路線を維持していくためには、減便するという方法があるが、日の里線については、最低数の乗務員数、車輛数で運行している。これ以上の減便は、ご指摘のとおり、利便性を大きく損なうものに繋がるため、運行を移管することでコストを削減し、維持したいと考えるので、ご理解いただきたい。

(原口委員)

宗像西鉄タクシーに移管した場合に、利用運賃は変更ないのか。
地図に赤い線と黒い線とがあるが、違いは何か。

(西日本鉄道株式会社)

運賃については、変更無し。運賃も含めて、現行のサービスのまま提供する。
黒い線は、日の里口を起点に左回り右回りと団地を巡回する路線となっている。
西大回りは、平日1日あたり23便運行している。東大回りは、平日1日あたり19便運行している。赤い線は東郷駅日の里口から宗像ユリックスへの路線になるが、平日に4往復の8便運行している。合計3系統で平日50便運行している。

(原口委員)

この路線も現行どおりということよろしいか。

(西日本鉄道株式会社)

路線も現行どおり。運行会社の変更のみとなる。

(永尾会長)

現行とほぼ変わらず、運行会社が変わるのみとのことなので、了承いただけるか。

(委員)

良い。

(永尾会長)

市としては宗像ユリックスに新しい総合体育館を建築しようという構想がある。最寄駅である

東郷駅との関係が重要となる。大きなスポーツ大会がある際は、東郷駅からたくさんのお客さんが来るだろう。この路線については、非常に重要。今川委員から話があったように、日の里地区については、団地再生という大きなプロジェクトを進めようとしている。市としても利用促進に繋がるような支援を行っていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

5 その他

1) 機構改革に伴う担当課替えについて

(事務局)

組織の改変があり、生活安全課で公共交通であるふれあいバスやコミュニティバス、西鉄バスの路線支援等を行っていたが、4月1日から新たにできる交通対策課、現在の渡船課にバス事業が移管する。来年度から交通対策課が、地域公共交通会議の担当課となるのでよろしくお願ひしたい。

福岡県から地域公共交通会議にオブザーバーという形で参加させていただきたいという要望があった。平成27年度から県の職員も参加することになると思うが、その際は、紹介させてもらおう。

(原口委員)

コミュニティバスの時刻、路線の変更をしてもらえないかという相談があった。変更をしたい場合の対応の方法を教えてください。マックスバリュにバス停を設置して欲しいという相談があった。

(事務局)

基本的には、2年に1度の時刻、路線の変更となっている。時刻については、運輸局への手続き等が必要であるため、最低でも半年以上の時間は必要である。再来年の4月への運行に向けて、検討していただきたい。

(今川委員)

日の里線の運行会社の変更については、いつ頃、地域に情報提供しても良いか。

(西日本鉄道株式会社)

運輸局への手続きが完了すれば、バス停等を利用して、利用者への告知をしていく。詳細なスケジュールは、現在調整中であるため、交通対策課とスケジュールを調整して、お知らせしていきたい。

(嘉村委員)

国で大きな動きがあり、交通政策基本法という法律が平成25年12月8日に公布、施行され

ている。この法律に基づく交通政策基本計画を国が平成27年2月13日に閣議決定をしている。

自治体でさまざまな交通政策をとっていただく際に、交通政策基本計画に基づいて、個別の計画を立てていただきたい。

(永尾会長)

岬地区のくりえいと3丁目へのバス停設置については、必要かどうかを地域で十分に検討いただき、結果を踏まえて、事務局に相談いただきたい。

(今川委員)

バスを使うキャンペーンを独自で行っても問題ないか。

(西日本鉄道株式会社)

コスト削減と合わせて、利用者を減らさないような取り組みを行っていきたいと考えているので、すべきこと、できることがあれば、お申し付けいただきたい。

(永尾会長)

本日の議題は、すべて終了した。年度の最後であるので、各委員に感想等を述べていただきたい。

(森委員)

タクシー事業者として出席している。会議の場が出た意見は、社長会や乗務員等にフィードバックしていきたい。正直な意見をいただけると幸いである。

(児嶋委員)

コミュニティバスに何度か乗車して勉強させていただいた。分からなかったこともあるので、もう1年の任期も頑張りたい。

(原口委員)

多くの人にバスを利用していただけることは良いことだと思う。地域の代表として、先を見通しておかなければならない。地域の状況を踏まえながら、公共交通について考えなければならぬと認識させていただいた。

(貫委員)

タクシー業界の労働者の代表として参加している。いろいろ勉強させられるが、コミュニティと運転手のコミュニケーションを図るように会社に要望を出している。コミュニティと運転手との交流がなければ、現場の声も上がってこない。コミュニケーションを図ることによって、積極的な現実に沿った意見を出せるのではないかと考える。

(平田委員)

河東地区からバス利用者として参加している。交通基本政策法も目を通して。勉強させていただいている。拙い質問にも答えていただいているので助かっている。

(峰委員)

吉武地区からバス利用者として参加している。運転免許証を持っていないため、感謝して利用しているが、赤字が続くことは心苦しく、気の毒だ。なるべく利用するようにしているが、割引の人の利用者が多いため、赤字の改善は難しく、個人の力ではどうしようもできないが、感謝している。

(原田委員)

メイトム宗像、宗像ユリックスの利用者として参加している。メイトム宗像や宗像ユリックスには、市民活動団体の集まりや生涯学習、子育て支援センターもあるので、どんな方でも利用しやすくなる公共交通になることを願っている。

(早川委員)

交通弱者とあるが、岬地区、池野地区は買い物弱者も多い。以前は空気を運んでいたが、サンリブに行くことができるようになり、先日も乗務員と話したが、利用者が増えたと言っていた。

(前田委員)

平成26年度から赤間地区コミュニティバスを本運行している。今年度、赤間地区のまちづくり計画の見直しで地域住民にアンケート調査を行った。バスが通って良かったという意見も多数あるが、まだ十分ではないという意見も多々ある。そういう意見も含め、再来年の改定に向けて、今から検討していきたい。

(今川委員)

まずは、今回の改正で「日の里コミセン入口」バス停を設けていただいたことに感謝する。会議に参加して分かったが、要望は多種多様である。日の里地区でもアンケート調査を行った際に、コミュニティバスを増やして欲しいという要望が多くあったが、要望と実際に利用する数にはかなり乖離がある。アンケート結果を鵜呑みにするのは、よろしくない。

市としても資源は有限であり、バランスを取ることに苦労していると思うが、私たちもできるだけ知恵を出していきたい。

(福澤委員)

この会議では、貴重なご意見をいただき感謝する。改善できる点については、改善していきたい。引き続き経費削減に努めていきたい。

(嘉村委員)

周知と要望を申し上げたい。

周知については、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部を改正する法律とう法律が昨年12月20日に施行されている。一部改正のポイントはまちづくりとの連携。今回の機構改革で渡船と総合的に公共交通を考えることは良いことだと思うが、この法律は、都市計画や観光関係との連携の取れる体制づくりが趣旨であるため、次回の機構改革ではまちづくりと連携していただきたい。

要望については、この地域公共交通会議にはJRと西鉄バスを利用して出向いている。可能であれば、日頃、乗用車を利用していると思うが、会議がある日は、バスを利用していただきたい。利用することによって、気付くことがある。乗っている方は意見が出るし、非常に参考になる。ぜひ、活用していただきたい。

(大枝副会長)

学識経験者として参加している。これまで交通は人口が増え、交通渋滞が起こる、道路が足りない、鉄道が欲しいという話であったが、ここ10年は人口が減り、暮らしにくいため、どうにかして欲しいというものになってきている。こういう問題は、馴染みがなく勉強になっている。これからも皆さんと一緒に考えていきたい。

(永尾会長)

お礼と平成27年度の会議について、考えをお話ししたい。

ふれあいバス、コミュニティバス、西鉄バスも含め、買い物や通院の手段と合わせて、高齢者の社会的な繋がりを確保する、いろんな方と繋がりを持つ大切な役割を担っている。今後は、そういう観点からも、この会議がより活性化されていけば良いと思う。

平成27年度は、料金の割引について検討いただきたい。高齢者、小学生以下、障害者等の利用料金は、通常200円だが100円で利用できる。見直す時期に来ているのではないかと考える。背景としては2つある。1つ目は、バス事業に継続性を持たせる、2つ目は、ふれあいバス、コミュニティバスは西鉄バスとの共存、共栄が前提にある。西鉄バスの初乗り料金が170円、一方、ふれあいバス、コミュニティバスは100円で利用できる。この2つの視点から、みなさんのご意見をいただきながら見直しを検討いただければと思っている。